創刊号 柴田学園報 にわうるし 平成22年7月1日発行【一部抜粋】

にわうるし

柴田学園報
創刊号
（年2回発行）

□発行　学校法人柴田学園　〒036-8503　弘前市上瓦ヶ町25番地　☎0172-32-6151

緑に映える明るい外観

東北女子大学新校舎完成

清原キャンパスに10月移転

所在地は弘前市清原1丁目1-16　建物は鉄骨造5階建て。HACCP対応型給食実習室をはじめ、学生ホール、各実習室、多目的ホール、礼法室など40室にわたる教育空間がある。　撮影：5月26日（次号にて詳細案内の予定）

就任あいさつ

学校法人柴田学園
理事長　今村吉彦

このたび、3月26日の理事会において柴田誠造理事長の後を受け、学校法人柴田学園理事長に就任いたしました今村吉彦です。使命と責任の重さに身の引き締まる思いでいっぱいです。

先ず申し述べたいのは、平成18年4月より4年間に亘り理事長として学園を支え、導いて下さった柴田誠造先生への感謝であります。特に、今夏には移転となる大学新校舎建設事業に関して、ご尽力を頂いたことも忘れられない事のひとつです。完成後は地域とともに発展できる学園施設として活用してまいります。

さて、足元に目を移しますと、第三者評価の義務化や少子化による学生の減少など、私学を取り巻く環境は大きく変化を見せており、綿密な経営方針の中で生き残りを賭けた努力をしていくことが必要と考えます。選ばれる立場としてより良い教育と環境づくりを実践していかなくてはなりません。創立当時から受け継がれてきた「柴田やす先生」の、建学の精神や教育理念、校訓、校歌という本学園の存在理由でもある大きな特色について全教職員が改めて思いを巡らせ、学園のよき伝統を不断に継続しながら指導にあたる必要を感じております。

地域社会のニーズの変化を正確に読みとり、どう構築していくかも大切です。私学ならではの、丁寧で細やかな教育をおこなうため、私も教職員全員と一丸となり、地域から選ばれる学園であるために努力していく所存です。

今後とも皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げまして、私の就任のあいさつといたします。

柴田学園創立87周年記念講演

出あいは　未来をひらく

森のイスキア主宰　佐藤初女先生

5月14日に、弘前市民会館において学園創立記念式典が行われ、今村吉彦理事長の挨拶に続いて佐藤初女先生の記念講演があった。

その後12時より祝う会がサンパレス秋田屋において開催され、学園教職員165名が新理事長の下、学園の更なる発展を心に期した。

佐藤　初女 先生　ご略歴

1921年青森市生まれ
青森技芸学院（現・青森明の星高等学校）卒業。小学校教員を経て、弘前学院大学で非常勤講師として教鞭をとる。95年に龍村仁監督のドキュメンタリー映画「ガイアシンフォニー第二番」に出演。国内外で「おむすび講習会」や講演活動を続けている。02年にNHK「心の時代」に出演。森のイスキア主宰。

【講演要旨】

今日の柴田学園創立記念日を皆様と共にお喜び申し上げます。私の母校も創立75周年を迎える外国が運営母体の私立学校ですが、戦後日本に経営がまかされた時、初めてのことでとても困った訳です。その時、こちらの柴田やす先生の所に何度も相談に訪れたという話を聞いておりまして、今日は何か他人でない親近感を持って出かけてきました。

さて、私は今「ささやかな活動」を続けていますが、それは何？と尋ねられれば**「食べることを大切にすること」**と答えています。食べることは日に三度のことで特別なことではないと思われがちですが、私達は食べなければ生きていけないし、生きる元気も出てきません。また食事を大事にしている家庭では問題があまり起こっていないし、食事を軽くみて手をかけない家庭では問題が出ています。

ある共稼ぎの家庭では食事も会話も充分時間を取れないでいるうちに子どもが不登校になり、解決策として食事を必ず作るように父親も協力したら良くなったそうです。また父親と娘二人がうまくいっていない家庭で、父親が定年になって娘さんのお弁当を作ったところ、感謝の言葉が自然に出てそれをきっかけに心が通じ合うようになったそうです。そのぐらい食べる事はストレートに心が伝わります。**「言葉を越えた行動が魂に響く」**のですね。

私の活動は小さな家を拠点としていますから何事も小さいのですが、変化は大きく見えます。先日もNHKのアナウンサーの方が「みんな先生の所に訪れる時はしおれて来ますが、帰る時はすっかり変わるんですね」と言われました。食べることで結ばれると食べた時の状況や心の動きも印象に残って明るく元気になるんです。ご飯というのは日本の文化と言われています。故河合隼雄先生は「やはり新鮮で旬な土地の食べ物が一番美味しいね」と言われました。食材の命が生かされた時私達は美味しいと感ずるのです。

そして魚・肉・野菜の命が私達の口を通して体に入って、今度は私達と一緒になって生涯生きていきます。この**「命の移し替えが私達の健康な心と体を育む」**のです。お母さんの母乳は、目の前で命の移し替えが行われていることですから、大切にしたいですね。

私は15～16年前に、映画『ガイアシンフォニー』の食の部分に出演しました。龍村監督が「日本の堕落している食を考え直さねば」とみんなに呼びかけるために、

岩木山麓の「森のイスキア」

「食はいのちの基本」と何年も話し続けてきた私の所へ依頼に来たのです。その頃私は「調理で煮たり焼いたり、味を調合したりするのは化学・物理ではないか」「調理は人の生きる姿そのものと考えると、哲学・心理学ではないのか」と考えていました。その後哲学者の方から対談依頼があり、その先生から**「すべては感ずること、気づくことから始まる」**という感情論哲学のお話を聞いて、お引き受けして良かったと思いました。

同じ年齢のいとこに私が「これからも成長していかなければね」と言うと「いまさら…」と言われますが、心の成長は最後まで続くものだと思います。面倒くさい、楽をしたいと思えば低下する一方ですから、苦しくても、誰にでもできる一線を一歩一歩越え、前進していくことが大事です。

若い時親戚のお年寄りから**「人にあることは自分にもあると思いなさい」**ということを教えられました。段々年齢が高くなり本当に体験してみると、それまでと違って深く物を受け止められるようになり、体験ほど尊いものはないと思うようになりました。私くらいの年齢になると、この先をどう考えているのかとよく質問されますが、**「今というこの時を真実に生きていると道が示されてきます」**と答えています。これは高校生、大学生、社会人も同じで、悩む中から自分の道を探していかなければなりません。そのためには、本人の芽を摘むことなく話をよく聞き、一緒に食事をしながら受け止めてあげる傾聴ボランティアが必要です。

河合先生は「今は話したい人や教えたい人ばかりで聞く人がいない」と言われましたが、全面的に聞いてあげるとその中で自分が納得して答えを出していきます。

こうして食べることを大切にしていれば親子・夫婦・友人のつながりは、確実で深いものになっていくでしょう。一粒一粒手の圧をかけて握ったおむすびの温もりが、次のよき出あいにつながるようお祈りして、私の話を終わります。

創刊号 柴田学園報 にわうるし 平成22年7月1日発行【一部抜粋】

東北女子大学

平成23年度教員採用試験首都圏の説明会始まる

教員採用試験の実績が、ここ数年関東方面に大きく飛躍していることから、今年4月に千葉県、神奈川県、横浜市の教育委員会担当官による採用試験説明会が開催されました。

千葉県から来学した中西先生は「良い働きぶりをしている東北女子大学出身の先生方の後輩がどんな教育を受けているのか、どんな学生さんなのか直接会ってみたかった。楽しみにして来ました！」と語りかけ、なごやかな雰囲気の中ですすみました。学生からは、教育に対する地域の取り組みや子供の特徴などについて、積極的な質問が出ました。

平成22年度採用数は、千葉県6名、神奈川県12名、埼玉県2名、さいたま市2名で、計22名（うち本採用15名）が新卒教員として教壇に立っています。

本学では、採用された人達が安心して仕事に取り組めるようにとOGとのネットワークづくりを強化し、サポート体制に一層力を注いでいます。

柴田女子高等高校

青森県高総文祭テーマの最優秀賞に選ばれる

弘前市を中心に10月29日から3日間開かれる第31回青森県高校総合文祭のテーマに、3年生の冨増愛乃さんの作品「花開く 津軽の里に 文化の実り」が最優秀賞に選ばれ、採用されることになりました。

県高校総体 6/4～6/7 女子バスケットで優勝!!

女子バスケットボール決勝戦

柴田高校		三沢商業
56	5－10 16－11 14－13 21－18	52

今大会は準決勝の弘実戦、決勝の三沢商戦とも接戦となりましたが、メンバーに焦りは全くなく、堂々の3年連続9度目の優勝を果たしました。

鶴ケ谷主将は「3連覇の重圧もあったけど、後輩たちもよく頑張ってくれた」とほっとした表情でした。

厳しい練習で培ったスタミナで勝負を決めた瞬間、青森市民体育館に大きな歓声が響き渡りました。

東北女子短期大学

子どもの笑顔守りたい

弘前警察署より委嘱を受けた「Pico-弘前」のメンバー・家政学科4年の櫻庭さん、児童学科の江渡さん、国塚さんの3人は、新入学児童が安全に登校できるようにと、4月7日に市内北小学校前の横断歩道で見守りました。そして一時停止と左右確認を指導し、元気な声で「いってらっしゃい。気をつけて！」と安全を呼びかけました。「県少年サポートボランティア」の活動がいよいよ開始です。

写真提供：陸奥新報社

就職に向けてアドバイス

卒業生による就職体験談が5月25日に行われました。

ファッションアドバイザー、栄養士、幼稚園教諭、保育士、介護員、事務職に就いている6人が内定を得るまでの過程や仕事の内容について話し、就職の参考になる事例を丁寧にアドバイスしていました。

メモを取りながら真剣な表情で聞いている2年生が多く、就職活動へのはずみとなったようです。

すでに社会人の表情が…

JRC部員 さくらまつりで大活躍

4月24日～5月5日まで、弘前さくらまつり奉仕活動に部員46名が参加しました。

この活動は、弘前さくら祭り期間中の土日祝日に、公園の清掃活動、迷子の対応等の活動を行うものです。初めて参加した一年の清藤朱莉さんは、「公園のあちこちにゴミが落ちていて驚きました。少しでもきれいにすることができ、参加してよかったと思います」と充実感を語っていました。

東北女子短期大学

第29回全国城下町シンポジウム津軽弘前大会

弘前市では、2011年に行なわれる「弘前城築城四〇〇年祭」に向けて様々なイベント・シンポジウムが開催されています。

6月12日に、弘前市民会館で行われた開会式、弘前文化センターで催された分科会、そして弘前公園でのウォークラリーに本学学生が多数ボランティアとして参加し、他県から見えたお客様に城下町弘前の良さをアピールしました。

秀芝寮で新寮生歓迎会がにぎやかに行われる

先輩によるアトラクション

4月28日に短大秀芝寮で新寮生歓迎会が行われました。自己紹介で緊張しながら出身地や趣味などを話すと先輩から応援のかけ声がかかり、すっかり寮生活にとけこんでいるようでした。

本学を会場に音楽教育学会が開かれる

6月19日の午後、全国大学音楽教育学会東北地区学会（会長古瀬百合子・東北文教大学短期大学部）が60人の参加のもとに開かれ、「幼児童の音楽教育の原点を見つめて」をテーマに研究発表・研修を行いました。

柴田幼稚園

五月晴れの下で植樹式行われる

「日本で、世界で、学校にグリーンサンタの森をつくろう」キャンペーン事務局から桜の苗木のプレゼントがあり、5月10日に植樹式を行いました。協賛のパナソニックの方や畑の作業中の父母の方も参列し、園長先生から「木は空気をきれいにして地球を守る」という話を聞きました。そばの30年たった大きな桜を見ながら、「元気に育って」と年長組の代表が土をかけました。きれいな桜が咲く頃みんなはどうなってるかな。

パパも多くなった保育参観日

一学期の保育参観が5月17日から20日まで行われました。朝から待ってた子ども達は、お母さんが来ると張り切りすぎたり、甘えて離れなかったり、いつもと違う表情の子もいました。クラスでは製作や音楽・体育遊びの活動が行われ、子どもの様子に父母から笑い声あり、拍手あり。和やかな雰囲気の中でわが子の成長を確かめていました。

手遊びおもしろいね!!

専門学校

東北栄養専門学校 歓迎の心を料理に込めて

4月13日の学友会主催新入生歓迎会は、先輩の手料理での昼食会となりました。

会場は飾りが施され、テーブルには程良く煮込んだカリー、美しく盛られた野菜サラダ、前日から生地をねかせて焼いたこだわりのナン、イチゴのババロアなどが所狭しと並びました。

教頭と学友会会長から挨拶があり、さっそく会食に入りました。黙々と食べ始めた新入生も、先輩の心を込めた料理で少しずつ緊張が解け始めたように見えました。会も半ばになると、自己紹介や2年生による調理の実演の見事さに歓声が上がり、終始和やかな雰囲気の中で交流を深めました。

東北コンピュータ専門学校 学外演習旅行に行ってきました!!

シャープの巨大液晶スクリーン

2年生は、学外演習旅行として、6月10日～6月13日の3泊4日で、幕張メッセで行われた「Interop Tokyo 2010」に行ってきました。クラウドコンピューティング、仮想化、高速な次世代ワイヤレスなどの最新技術の展示を見てきました。タイムリーに映像や情報をディスプレイ表示する次世代型広告塔や3D映像などデジタルサイネージに圧倒されました。

夜には、関東圏で働いている卒業生との懇談会で、先輩から「プロジェクトが終わり配属が変わるとすぐ新しい言語での仕事が求められる」という現場の話を聞き、それに対応できる先輩を見習いたいと、感心して帰ってきました。

東北経理専門学校 努力の継続は力

今春の卒業生が先日学校に顔を出し、3月に受験した建設業経理士2級の合格通知が届いたと、笑顔で報告に来ていました。

本校は検定試験が豊富で卒業までに10種類の資格を取得しますが、中には卒業後も勉強を積み重ねる人がいます。

例えば建設関係企業の経理事務として働く場合、さらに建設業経理士2級の取得を求められ、学校に相談に来ることがあります。

このように、卒業後も勉強の仕方や取得の手立てについてフォローアップしていくことが、今は大切な役目となってきています。

先に報告に来た彼は更なる勉強を計画中とのこと。この種のニュースは私たち教師にとって一番の喜びです。